

TS-M2M-0014v3.1.1

LwM2M とのインターワーク

LWM2M Interworking

アブストラクト：

本文書は、ASN/IN/MN CSE と LWM2M エンドポイントとの間をつなぐ、M2M サービス・レイヤのインターワーキング機能を規定したものである。

目次：

1 章 所掌範囲（目的）

本文書は、ASN/IN/MN CSE と LWM2M エンドポイントとの間をつなぐ、M2M サービス・レイヤのインターワーキング機能を規定したものである。以下のインターワーキング・シナリオを実現するため、oneM2M TS-0001[2] 付録 F にて割り出されたアーキテクチャが用いられている。

- LWM2M エンドポイントと M2M アプリケーションとの間のコンテンツ共有リソース内で、エンコードされた LWM2M オブジェクトとコマンドを透過的に移送するインターワーキング
- LWM2M エンドポイント内の LWM2M オブジェクトを、M2M アプリケーションが用いるセマンティクスに対応するコンテンツ共有リソースに全てマッピングする形のインターワーキング
- oneM2M<mgmtObj>リソース付の LwM2M オブジェクトの 1 対 1 のマッピングのインターワーク

注記：本文書では、コンテンツ共有リソースを <container> と <contentInstance> リソースに限る

2 章 引用文献

3 章 定義、略語と頭字語

4 章 表記法

5 章 アーキテクチャ・モデル

参照モデルやインターワーキングのタイプについて。

6 章 アーキテクチャの諸相

LWM2M デバイスやエンドポイントのライフサイクル、LWM2M オブジェクトの扱い、Interworking

7 章 透過的インターワーキング

機能概要および <contentInstance> リソース属性のマッピングなど。

8 章 セマンティクスに対応するインターワーキング機能（情報）

機能概要およびセマンティクスに対応するコンテンツ共有リソースの構造、ベース・オントロジーへのマッピング・ガイドラインなど

9 章 oneM2M マネジメント・オブジェクト・ベース・インターワーク機能

oneM2M がマネジメントする様々なリソース・タイプなど

付則 A (規則) OMA LightweightM2M (LWM2M) 概要

OMA LightweightM2M の機能コンポーネント、各種インターフェース、プロトコル等について、その概要を記述している。

Abstract:

The present document specifies the interworking capabilities of the M2M Service Layer between ASN/IN/MN CSEs and LWM2M Endpoints.

Scope:

The present document specifies the interworking capabilities of the M2M Service Layer between ASN/IN/MN CSEs and LWM2M Endpoints using the architecture identified in Annex F of oneM2M TS-0001 [2] for the following interworking scenarios:

- Interworking for transparent transport of encoded LWM2M Objects and commands in Content Sharing Resources between LWM2M Endpoints and M2M Applications.
- Interworking with full mapping of LWM2M Objects in LWM2M Endpoints to semantically enabled Content Sharing Resources that are utilized by M2M Applications.
- Interworking with one-to-one mapping of LWM2M Objects with oneM2M <mgmtObj>

resources

NOTE: The present document limits Content Sharing Resources to <container> and <contentInstance> resources.